

視察研修先	宮城県南三陸町議会	氏名	渡邊 賢一
視察研修項目	震災からの復興及び防災について		
感想・所見等	<p>1. はじめに</p> <p>この度は、私どもの行政視察に際しまして、南三陸町議会議長星様をはじめ企画課の佐々木様、千葉様、総務課の小野様、議会事務局長男澤様にご多忙のところご快諾いただき、心温まるご丁寧な対応をいただきましたこと、あらためまして感謝申し上げます。</p> <p>未曾有の甚大な被害をもたらした大震災となり、多くの尊い生命と財産が犠牲になったこと、さらに多くの行方不明者を含め人的被害が想像を絶する規模となり、私たちが自然の力に対し無力であることを拝見しました。</p> <p>ここに、東日本大震災から11年9か月。お亡くなりになった御霊に衷心より哀悼の誠を捧げますとともに、被災された方々、避難を余儀なくされ、いまだに不自由な生活を強いられている方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。震災でご両親を亡くした遺児・ひとり親となった孤児合わせて全国約1800人の子どもたちの幸せを願い、苦難を乗り越えて強く生きてほしいと思います。</p> <p>2. 概要</p> <p>ホームページなど資料によると、2011年(平成23年)3月11日14時46分18秒、マグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震が発生し、南三陸町は震度6弱(観測地点:歌津地区、志津川地区)を記録。さらにこの地震が引き起こした津波は町内の3つの川を逆流し、1960年(昭和35年)のチリ地震による津波の到達地点を越えて内陸深く進入し、町役場庁舎もこの津波に巻き込まれました。この地震による地殻変動に伴い、志津川地区の地盤は大きくずれた。町内にある5つのJR鉄道駅は、周辺地域の駅同様、その全てが甚大な被害を受けたとあります。陸前戸倉駅は駅と周辺施設の全てが跡形もなく流失し、志津川駅・陸前港駅は駅舎などが流失し、線路も大きな被害を受け、高台よりにあった歌津駅と清水浜駅は辛うじてプラットフォームが残ったものの、歌津駅の駅舎は全壊、周辺の線路は大きくねじ曲がるなど、JR気仙沼線は至る所で線路が寸断、鉄橋も崩落、トンネル内にも瓦礫や漁船等の津波漂流物が入り込んだそうです。今回は、その現場を移動中の代行バスから視察させていただきました。</p> <p>また、当時の資料では、2011年6月22日時点で判明した人的被害は死者542人、行方不明者664人、町内の避難者2,697人、町外および県外</p>		

への避難者 1,832 人、建物被害は全壊 3,166 棟・大規模半壊 91 棟・半壊 54 棟で、被災率 61.1%。仮設住宅は申し込み数 2,045 戸に対して 1,233 戸が完成し、併せて、民有地 35 箇所が活用されていると記録されています。今回頂いた被害の状況の資料によれば、2022 年 3 月末現在、人的被害は、死者 620 人、行方不明者 211 人、建物被害は全壊 3,143 戸、半壊大規模半壊 178 戸、震災後の人口は、12,038 人となっています。

### 3. 感想

今回のテーマは、南三陸町の復興状況と防災について、詳しくご説明いただきました。順を追って、感想を簡潔にまとめてみました。

#### (1)防災について

南三陸町の災害時避難者の想定は、津波の被害を受けた地域の高台移転が完了して、ハード面の整備がほぼ100%であることから、想定されるのは、昼間の低地部での活動者と夜間の海岸での漁業者や釣り人が対象になります。また、風水害は、河川の浸水区域、土砂災害警戒区域等の住民となります。また、指定避難所は、小中学校や公民館など 16 施設、自主防災組織も 70%組織化されています。しかし、近年は新型コロナウイルス感染症対策によって、これらの組織の活動は縮小を余儀なくされており、本市と同じ状況にあります。万一の自然災害に対し、防災減災が今後の課題であります。

#### (2)長期化する避難所運営について

東日本大震災では、多くの沿岸部の住民が長期間避難生活を余儀なくされましたが、近隣自治体への広域的避難を行うまでの一次避難は、町職員だけでなく災害ボランティアが主体となって避難所を運営してきました。現在は、新たなまちづくりが完了したため、避難対象者は極めて少なくなったそうである。

私も本市の社会福祉協議会の災害ボランティアに登録し、微力ながら河北町、大江町の活動に参加させていただきましたが、南三陸町でもスーパーボランティアをはじめ全国各地から結集した方々が大きな力となって活躍されたそうです。

#### (3)防災備品

食料、生活用品のほか、新型コロナウイルス対策に必要な資機材を備蓄していました。

#### (4)自主防災組織の活動状況

69 行政区に 48 の組織が設立されていて、組織率は約 70%です。災害発生の可能性が低い行政区の組織が課題とされています。活動に対する町からの各種補助金が交付され、防災資器材の備蓄や更新など活動推進が続けられています。コロナ禍により、現在は活動縮小傾向となっている中で、災害時の集合場所、役割分担、連絡体制を確立しており、町の防災訓練を実施していて、今後は地区防災計画策定が当面の課題となっているそうです。

#### (5)福祉避難所

南三陸町では、福祉避難所として指定しているところはありませんでした。

### 4. 所見

今回の行政視察で、2 点質問させていただきました。また、同僚議員の質問 1 点について、なるほどなど、共有してきました。

#### (1)小中学校における防災教育について

南三陸町の小中学校では、授業の中で防災について教えているそうです。特に、避難訓練だけではなく、避難所の運営を実際自分たちが行って、住民の方をどう誘導するかや食事の提供だったり、困ったことへの対応など子供の視点で自ら考えて実施していました。素晴らしいことです。

#### (2)コロナ禍における災害ボランティア受け入れ制限

2 年前の河川氾濫による浸水被害で、河北町及び大江町では受け入れ制限を行いました。今年の置賜での被害自治体においても同様なことが行われました。感染防止のためやむを得ない措置であった反面、支援が必要な住民に十分ボランティアが行けないことも課題となりました。

南三陸町においては、この間のコロナ禍における災害らしい災害が起こっていないので、そうした制限はないことでしたが、全国各地から駆け付けた災害ボランティアのチカラは非常に大きかったそうです。

#### (3)災害時の議会としての立ち位置及び事業継続計画

議会の議長・副議長及び議会事務局長が災害対策本部に入り、迅速かつ的確に災害対応でききるようにしていました。議会は議会として、情報を共有し、被災地域の情報収集や緊急対応の要請など一本化していく努力が行われています。また、本市の議会 BPC(事業継続計画)を策定し、自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最

小限にとどめつつ、議会活動の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておくうえで、こうしたことも必要であると思いました。

## 5. むすびに

本市の過去の災害や実地調査等を基に、災害により危険が予想される場所を表した地図の防災マップ(危険区域予測図)で地震や津波、洪水のほか、火山や落石・地すべり等の避難経路や避難場所等の避難に関する情報が盛り込まれており、その有効活用が十分行われているかといえば、まだまだではないだろうか。必ずしも自主避難・集団避難の実地訓練が、実際の避難に直結するかどうか、本市の市民の意識は高いとは言えませんが、備えあれば憂いなしです。最近の災害は、温暖化によって忘れたところでなく、毎年やってくると肝に銘じ、先進自治体である南三陸町様のこれまでのご労苦を参考にさせていただきます。ご丁寧な対応に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

写真は、町議会議場にて星議長様(中央)と撮影(筆者は右端)



視察研修先	宮城県気仙沼市議会	氏名	渡邊 賢一
視察研修項目	震災からの復興及び防災について		
感想・所見等	<p>1. はじめに</p> <p>この度は、私どもの行政視察に際しまして、ご多忙のところご快諾いただき、心温まるご丁寧な対応をいただきましたこと、あらためまして感謝申し上げます。</p> <p>未曾有の甚大な被害をもたらした大震災となり、多くの尊い生命と財産が犠牲になったこと、さらに多くの行方不明者を含め人的被害が想像を絶する規模となり、私たちが自然の力に対し無力であることを拝見しました。</p> <p>ここに、東日本大震災から11年9か月。お亡くなりになった御霊に衷心より哀悼の誠を捧げますとともに、被災された方々、避難を余儀なくされ、いまだに不自由な生活を強いられている方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。震災でご両親を亡くした遺児・ひとり親となった孤児合わせて全国約1800人の子どもたちの幸せを願い、苦難を乗り越えて強く生きてほしいと思います。</p> <p>2. 気仙沼市の被災状況</p> <p>気仙沼市では、大震災で1,246名の方々の尊い命が犠牲となり、懸命の捜索にも関わらず、今なお220名の方が行方不明となっております。加えて109名の方々が関連死と認定されました。また、被災事業所数は、全体の80.7%に及ぶ3,314事業所、被災従業者数は、83.5%に及ぶ25,236人と記録されています。</p> <p>犠牲となられた方々を悼み、震災の記憶を後世に伝え、未来永劫の安寧を祈念する復興祈念公園を海を見渡す陣山に開園されたそうです。被災した方々は今もなお、それぞれに悩みや課題を抱えておられます。その御労苦を少しでも和らげ、顔を上げ、前を向いていただけるようこれからも希望の光を造り、灯したいとして、つくられた公園だということです。</p> <p>今回、私たちが訪れた気仙沼市大震災遺構・伝承館は、気仙沼向洋高校をそのままの状態で保存されています。向洋高校跡地に建設された震災遺構・伝承館には、東日本大震災の大津波襲来の壮絶な動画や爪痕、感涙する地元中学生の卒業式の答辞・語り部による奇跡の避難動向等の説明等「防災意識の啓発できる館」として修学旅行や研修などで全国から多くの皆さんが訪れているとお聞きました。施設のホームページには、将来にわたり震災の記憶と教訓を伝え、警鐘を鳴らし続ける「目に見える証」として活用し、気仙沼市が目指す「津波死ゼロのまちづくり」に寄与することを目的としています。</p>		

### 3. 視察項目内容

#### (1)長期化する避難所運営

市内の指定避難所は、当時 37 カ所を設定していたが、実際には、町内会の会館やお寺、大きな個人住宅、市役所庁舎や消防署にも避難し、105 カ所でした。市民約 6 万人の 3 分の 1 となる 20,000 人が避難、食事提供をはじめ支援物資を配ることとなったそうです。

ライフライン復旧に電気 2 か月、水道 3 か月、体育館に雑魚寝、風呂なし、廊下に座ったりパンを残すなど、不自由な生活を余儀なくされました。

大人たちが家や財産、仕事を失い、落胆している中で、中学生が避難所支援、卒業生が帰省して支援するなど、若い力に助けられたとお聞きました。

5 月以降に応急仮設住宅が完成し、入居したことによって、避難所を徐々に集約、避難者の気持ちに寄り添って時間をかけて丁寧に説明して環境の変化に十分配慮することを心掛けてきました。市内の一次避難所は、12 月 22 日に解消、閉鎖されることになりました。

12 月 26 日に、93 団地、3504 戸目の応急仮設住宅が完成し、また、その後災害公営住宅が完成し、2020 年 3 月 26 日には仮設住宅を撤去することとなりました。

#### (2)防災備品

救助物資である食料・生活用品など旧青果市場や市役所から税務課職員が配送担当したそうです。救助物資の整理について、地域防災計画通り十分備蓄する必要があります。

#### (3)自主防災組織の活動状況

コロナ禍の避難所設置対策として、飛沫感染防止パーテーション設置や運営する側の意識を高めていくため、中学生による防災教育、中学生と地元住民、地元企業、海外研修生協働の避難所設置訓練を実施しています。

#### (4)福祉避難所

震災当時、福祉避難所の指定はなく、避難所生活が難しい要支援者については、ケアマネジャーと相談しながら休所中の保育所 1 カ所を開設し、そちらで支援を受けました。病院からベッドを譲り受け、段ボールベッドも用意しました。その後、3 月 26 日から 5 月 10 日まで、市内 11 カ所、市外 2 カ所の介護サービス施設を福祉避難所として指定してきたそうです。

#### 4. 感想

当時、向洋高校には生徒・教師・工事関係者約 250 名位がいて、校舎は海から約 150m、海拔は 0～1m位の立地条件下で 13m を超す大津波に襲われながら、臨機応変な迅速避難で誰一人犠牲にならなかったそうです。生徒の皆さんは、近くのお寺、駅、そして中学校の高台に避難されたことで、九死に一生を得た、奇跡的に人命を失わずに済んだそうです。

高校入試の答案や成績の非常持ち出し等で校舎に残された職員や建設業者は、必死に校舎屋上に避難するも、校舎屋上ぎりぎりまで津波が押し寄せたことで、救助が遅れたこと。カーテンを身にまとい、非情な寒気をしのぎ、たった一つのストーブで暖を取り、低体温症をしのいだこと、私は絶句しながら涙し、丁寧に説明していただいた語り部の方より悲しい震災の真実をお聞きしました。

#### 5. むすびに

東北大学今村教授の言葉で、「フェーズゼロ」今日は、歴史的な大災害の前日なのかもしれません。自分を、家族を、市民を守るためにできることがあります。貴重な警鐘の重みのある言葉です。

今回の視察で、私たちは、この社会において奇跡的に生かされていることを踏まえ、将来にわたり震災の記憶と教訓を学ぶことができ、警鐘を鳴らし続ける「目に見える証」として詳細にわたって拝見させていただきました。今後とも本市が目指す「安全安心で住みよいまちづくり」に繋げていかなければならないこと、政策提言を通じて防災・減災の取り組みを真剣に考え、具体的に発信しながら議員活動に邁進していかねばならないと、決意を新たにしました。

写真は、現地で撮影させていただきました震災遺構の一部です。





